

男女共同参画のための 教育とメディア・リテラシー



メディアジャーナリスト
慶應義塾大学SFC研究所 上席所員
相模女子大学講師

渡辺 真由子 さん

メディアから発信されるたくさんの情報に接する中で、私たちは無意識のうちに考え方やものの見方などに影響を受けているかもしれません。例えば男女のイメージはどうでしょうか？メディアが描く女性像・男性像にはいまだに性別役割分担意識が色濃く反映されており、男女共同参画社会推進の妨げになっていることが少なくありません。男女共同参画社会の実現のためには、一人ひとりが情報をうのみにせず、その裏側を読み解く力「メディア・リテラシー」を養うことが大切です。

メディア・リテラシーの視点から、人権や青少年の問題を研究されている渡辺真由子先生にお話をうかがいました。

刷り込まれる女性像と男性像

男女共同参画の推進を妨げている要因の一つに、メディアが発信する情報によって刷り込まれる男女の性別役割分担意識があげられます。テレビ、CM、雑誌や新聞のキャッチコピー、文章表現、画像の選択、いたるところで典型的な「男らしさ、女らしさ」の表現が使われています。それは受け取る側にとっても理解しやすく受け入れられやすいため多用されがちで、このようなステレオタイプの情報が繰り返し発信されることで元々あった性別役割分担意識をさらに強固なものにしています。この背景には、メディアの世界では圧倒的に性別役割分担意識に捉らわれた男性が多いこと、特に意思決定力を有する管理職層はほとんど男性で占められており、男性目線で情報が作られ発信されていることがあります。

メディア・リテラシーを養うには、メディアが発信する情報に関してまず、メディアならではの特性を知ること、表現に駆使されるテクニックを知り、メディアが発信する情報がどんなふうに自分の価値観や意識に影響しているかを知ることから始めます。情報をうのみにせず、その背景には必ず発信者がいて、どのような意図で発信しているかを常に気にかけてながら情報に接する習慣を身につけましょう。

さらに、自分のメディア体験の洗い直しも大事です。

子どもの頃から見たテレビ番組、読んだ本…その中で、自分の行動規範や意識に影響を与えたり、方向付けをしたものはないでしょうか？その上で自己分析し、メディアが発信する性別役割分担意識に自分が縛られている場合があることに気付くこと、そして自分が周りに対して同じような価値観を押し付けていないかを振り返ることも必要です。

教育に携わる者の責任として

これからの社会を担う子どもたちに教え、育てる立場にある大人は、情報とどう向き合うかを折にふれて子どもたちに教えていく必要があります。

今の子どもたちの情報源は、インターネットに偏る傾向があります。インターネットで得る情報は、自分が興味のあるタイトルをクリックして見ていくので、幅広いようでは実は非常に限定的な偏ったものになります。しかもその情報は個人の主観や企業や組織の意図によるものだったり、精査もされていない不確かなものであったりと玉石混交です。そのことに気付かせ、物の見方の多様性を教えるのは大人の責任です。そのためにも大人一人ひとりがメディア・リテラシーの能力を磨き、その大切さを子どもたちに教えていくことが必要でしょう。

プロフィール

わたなべ まゆこ
渡辺 真由子

Profile

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程を経て現在、慶應義塾大学SFC研究所 上席所員(訪問)。元テレビ局報道記者。いじめ自殺と少年法改正に迫ったドキュメンタリーで日本民間放送連盟賞 最優秀賞、放送文化基金賞優秀賞などを受賞。メディア・リテラシーの観点から「人間の尊厳が重んじられる社会」の構築へ向け執筆、講演、新聞連載・テレビのコメンテーターを多数務める。著書に『オトナのメディア・リテラシー』、『大人が知らない ネットいじめの真実』、『プロフ中毒ケータイ天国 子どもの秘密がなくなる日』ほか多数。

特集

鹿児島市男女共同参画 推進条例を制定しました！

鹿児島市では、男女が互いの人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指して、市民・事業者等のみなさんと連携・協力して男女共同参画を一層推進するために「男女共同参画推進条例」を制定しました。

(平成26年4月施行)

どうして？
男女共同参画社会が
必要なのですか？

「男だから、女だから」という理由で個人の生き方や人生の選択が制限され、機会が奪われるようなことがあってはなりません。

少子高齢化の進行など社会経済情勢の変化に対応するためには、「男性は仕事、女性は家庭」といった性別による固定的な役割分担意識にとらわれずに、男性も女性も意欲に応じて、地域や職場等のあらゆる分野・機会において、ともに活躍できる男女共同参画社会の実現が重要です。

しかし「男女共同参画に関する市民意識調査」(鹿児島市)の平成17年度と平成22年度の結果を比較してみると、市民の意識変化は緩やかであり、依然として性別による固定的な役割分担意識は根強いものがあります。

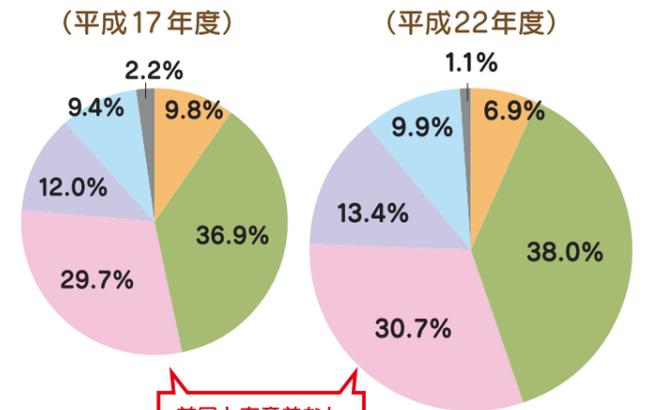
そこで、鹿児島市では、男女共同参画のさらなる推進に取り組むため、「男女共同参画推進条例」を制定しました。

みんなが
希望の持てる
社会を
つくろうね！

わたしは「男女共同参画社会」が
大きく推進されることを願う木だよ。

“男性は仕事、女性は家庭”という
考え方についてどう思いますか？

～性別役割分担に対する考え方(全体)～



前回と有意差なし

■ 賛成
■ どちらかといえば賛成
■ どちらかといえば反対
■ 反対
■ わからない
■ 無回答

「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた「賛成」の割合が内閣府調査より高い。